

粟田院あはたのあん〔粟田口あはたぐちの北、字を円覚寺えんかくといふ、清和天皇せいわの離宮なり。三代実録じだいじつろくに云、元慶三年げんけい五月四日、太上天皇清和院より粟田院に遷幸し給ふ。又云、元慶五年三月十三日勅して曰く、愛宕郡粟田院あたぎごほりは原是太政大臣藤原朝臣の山莊なり、太上天皇清閑寺せいかんじに赴き給時暫く仙■を駐られ、遂に此地に於て落飾し給ふ、道場となして額を円覚えんかくといふ。又云、元慶四年十二月、太上天皇円覚寺において崩じ給ふ。延喜式云、円覚寺料一千束、又此辺に源ノ為義ためよしの山莊の址あり〕

無題詩云

今来円覚勝形境。

念仏遙期九品蓮ニス。

菅原在良